

糖尿病の眼合併症

糖尿病網膜症

今回は、「糖尿病の眼合併症」の特に「糖尿病網膜症」について眼科の齋藤先生にお話を伺いました。

全国で糖尿病患者は約600万人と言われおり

今も増加傾向であります。

糖尿病による目の合併症はさまざまです。

その中で糖尿病網膜症は糖尿病性腎症と糖尿病性神経障害と

並んで糖尿病の3大合併症の中の1つであり、

現在成人の失明原因の第1位の疾患です。

今回は糖尿病網膜症について簡単に説明したいと思います。



糖尿病とは

糖尿病は、遺伝的要因や環境的要因によって、インスリンという血糖を下げるホルモンの効果が低下し、血糖が上昇します。その高血糖状態が持続することにより体内の小さなさまざまな血管が変化し、血流を障害させます。その血流障害が体内のさまざまな場所で合併症を生じさせます。糖尿病網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害だけでなく、

心筋梗塞や脳梗塞などの命に関わるような合併症も起こしやすくなります。

また、糖尿病は、初期の段階では自覚症状がありません。そのため、人間ドックや検診で偶然発見されても放置されていることが多いのです。そして、進行して前に書いたような合併症が起きてから来院される方が多いのも特徴です。



糖尿病網膜症

糖尿病網膜症は、糖尿病患者の30%の頻度で起こると言われています。放置すると進行し失明の危険もある大変恐ろしい合併症です。

網膜というのはカメラで言うところのフィルムに当たるところで、外から入った光や像が網膜に映し出され、それが神経を伝わって脳で何が見えたかを判断しています。フィルムが悪いと写真が撮れないように、

単純性網膜症

まず、糖尿病に伴い起こる変化は、小さな血管のこぶ(毛細血管瘤)です。このこぶから水分がしみ出て網膜に水ぶくれ(これが網膜の白斑の原因となる)を起したり、こぶが破けて出血(網膜出血)を起したりします。また、小さな範囲で網膜の血流障害

網膜が悪いとものが見えません。網膜というのは目にとって最も大事な部分なのです。また、網膜には非常に多くの血管が通っています。さきほど述べたように糖尿病は血管の変化を起します。網膜の血管も例外ではなく、血管の変化から血流の障害を起します。それが糖尿病網膜症なのです。

一口に糖尿病網膜症といっても、次の3つの段階に分かれます。

を起します。この段階は単純性網膜症(写真I)と言われています。この段階での治療は内科で血糖を下げる薬が主で、眼科での治療は血管を強くする薬を内服することが時々あります。基本的には必要ありません。また、この段階までであれば治療によって正常に戻ることが可能です。だからといって眼科の診察が不要かと言う